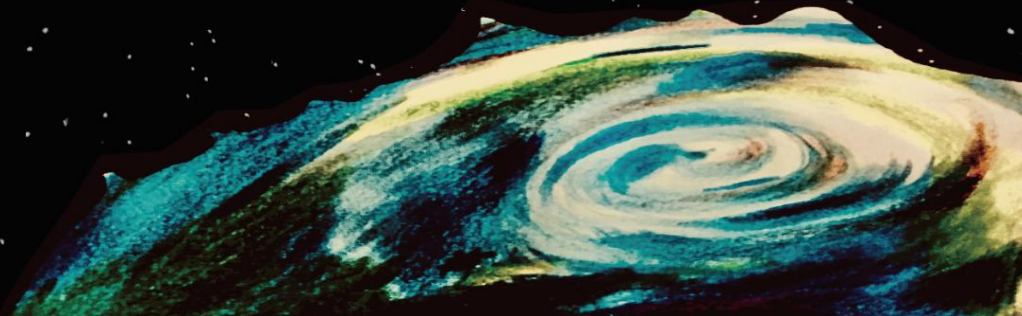


さあ、かきまぜよう。世界を。

UNIVA

# 箕面市 × UNIVA 連携プロジェクト

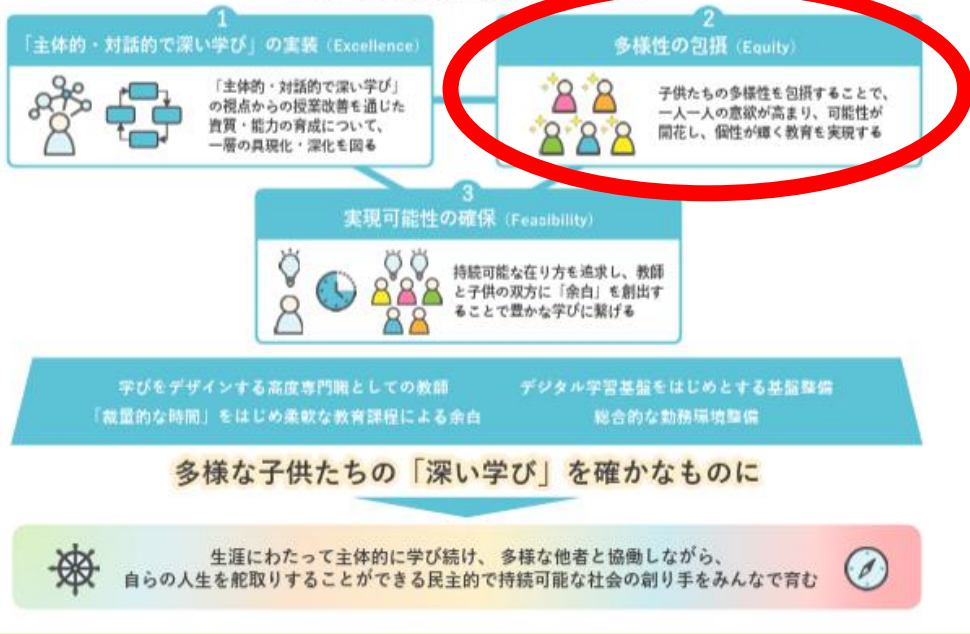
2026/2



## 1. 学習指導要領改訂の大きな方向性とは？

次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化する～



## 2

### 多様性の包摂 (Equity)



子供たちの多様性を包摂することで、一人一人の意欲が高まり、可能性が開花し、個性が輝く教育を実現する

文部科学省 教育課程企画特別部会  
(2026.1)

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chu-kyo/chukyo3/004/gaiyou/mext\\_00010.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chu-kyo/chukyo3/004/gaiyou/mext_00010.html)

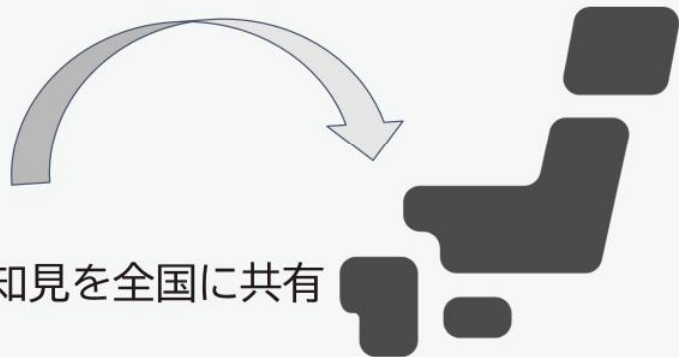
- 本プロジェクトにおいては、多様な子どもがいることを前提としたインクルーシブ教育を実践して、その知見を全国に発信することで、全国でインクルーシブ教育が実践されることを目的とする。
- 本プロジェクトにおける「インクルーシブ教育」は、「多様な子どもが共生するために学校を変革するプロセス」と定義する。

## インクルーシブ教育の実践、知見の蓄積 政策共創



さあ、かきまぜよう。世界を。

UNIVA



知見を全国に共有

寄付・助成金

Soil



## 対象

## 目的

## 内容

### モデル校(FY2024)

- 埼玉県戸田市/大阪府箕面市/東京都狛江市モデル校4校

- モデル校の通常学級において社会モデルを土台としたプログラムの開発・実施及び学校改革を实践、知見を蓄積

- 各学校と共に計画策定、推進、コンサルテーション
- 社会モデルPGM開発

### モデル自治体(FY2025)

- 埼玉県戸田市/大阪府箕面市/東京都狛江市 それぞれ複数の学校

- 自治体においてモデル校の知見を展開
- 自治体としてのインクルーシブ教育の方針策定（特別支援学校含む）

- モデル自治体へのコンサルテーション
- 社会モデルPGMのブラッシュアップ
- 他自治体含む勉強会の実施

### 全国へ (FY2026)

- モデル自治体以外の自治体

- 地域全体でのインクルージョンの推進
- 国への政策提言

- 希望自治体へのコンサルテーション
- 社会モデルPGMの全国展開
- 自治体同士のネットワーキング

# 2024年度の取り組み

さあ、かきまぜよう。世界を。



コンサルテーション  
視察・教材の提供



箕面市立  
萱野小学校



狛江市立狛江  
第三小学校



戸田市立  
戸田東小学校



戸田市立  
戸田中学校

①学校改革  
インクルーシブ化



各学校の推進チームと計画作成・研修・助言など

②社会モデルPGM



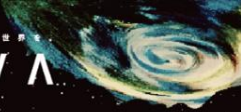
学校を横断した開発チームで社会モデルPGM開発・実践

- 萱野小学校におけるモデル実践を継続・発展
- 全校におけるインクルーシブ教育の施策の整理、全体の効果検証及びフィードバック
- 各学校における施策の効果検証及びフィードバック

インクルーシブ教育の実現に向けた  
持続可能な仕組みづくり

# 箕面市の支援教育充実に向けた取り組み

学校	実施内容	効果検証
全学校	<ul style="list-style-type: none"><li>● 支援教育計画に基づく教職員向け研修やLITALICO教育ソフト、リーディングチーム、通級の整備、支援員の充実など</li><li>● 各学校独自の取り組み</li></ul>	子どもの強さと困難さアンケート SDQ  ※希望する学校のみ実施
萱野小学校 (UNIVAモデル校)	<ul style="list-style-type: none"><li>● PBS</li><li>● 第3層支援の充実への具体的な助言</li><li>● 社会モデル授業（5年生）</li></ul>	UNIVA教師向けアンケート UNIVA子ども向けアンケート
検証加配校5校	<ul style="list-style-type: none"><li>● PBS</li></ul>	子どもの強さと困難さアンケート SDQ



### 3. 人権意識と障害理解について

#### 1 子どもの強さと困難さアンケート (SDQ) の実施について

##### 《目的》

- ・市内の支援教育・インクルーシブ教育の充実に向け、児童生徒の行動傾向を把握
- ・共同研究校や検証加配校の実践効果を検証
- ・各学校へ個別フィードバックを行い、学級経営・学校経営に活用

##### 《内容》

- ・検証加配校および一般社団法人UNIVAとの連携による「子どもの強さと困難さアンケート (SDQ)」

##### 《使用するアンケート》

- ・名称：SDQ (Strengths and Difficulties Questionnaire)
- ・質問数：25項目 (児童生徒自身がタブレットにて回答)

(例) 「友だちとの関係が良好か？」

「怒りっぽさはあるか？」

「不安を感じやすいか？」

など、学校生活の中でよく見られる子どもの行動傾向から実態を把握する。

### 3. 人権意識と障害理解について

#### 2 活用方法・研究体制等について

##### 《活用方法 (アンケート結果の活かし方)》

- ・学校経営や学級づくりのヒントとして活用
- (例) ・学級担任、支援学級担任、支援教育支援員等との連携及び校内支援体制の整備
- ・情緒面で支援が必要な傾向が見られた児童生徒に対し、個別対応や支援会議を設け、市全体の支援教育の方針づくりに活用
- ・全体傾向に基づき、教員研修のテーマや教材開発の方向性を検討

##### 《倫理面・個人情報の取り扱い》

- ・アンケートは匿名式で学校単位、あるいは学級単位の分析に留める。
- ・以下の学識経験者がUNIVAとの共同研究として大阪教育大学の倫理審査を受ける予定

氏名	所属・役職
野口 晃菜	博士 (障害科学) / 一般社団法人UNIVA 代表理事 / 日本ポジティブ行動支援ネットワーク 理事
野田 航	大阪教育大学 准教授 / 同ネットワーク 理事
庭山 和貴	大阪教育大学 准教授 / 同ネットワーク 副代表理事
箕面市教育委員会	子ども未来創造局 人権施策室

##### ■ 検討の際の視点

- ・SDQの結果を効果的に活用するために必要なことは

令和7年度第1回箕面市支援教育充実検討委員会

SDQ（Strength and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート）は、簡便なスクリーニング式質問票で、幼児期から青年期にかけて、適応と精神的健康の状態を包括的に評価できることから、世界中の多くの国々で使用されているものです。

以下の5つの側面（+総合的な困難さ）を測定

- 向社会的行動（他人を援助したり共有したりする行動の程度）
- 多動・不注意（注意持続の難しさ、じっとしていることの難しさの程度）
- 情緒不安定（不安や落ち込み、不定愁訴などを示す行動の程度）
- 問題行動（喧嘩、いじめ、嘘、癩癩などの不適切な行動の程度）
- 友人関係問題（友達関係において適切な関係が築けている程度）
- 困難性総合（総合的な困難さ）

「SDQとは」 <https://ddclinic.jp/SDQ/aboutsdq.html>

# 結果について（途中経過）

※本資料は、児童生徒を選別・診断することを目的とするものではなく、学校や教育委員会が支援体制を検討するための状況把握の一資料として作成したものである※

参加学校：希望された学校 小学校7校、中学校4校、合計11校

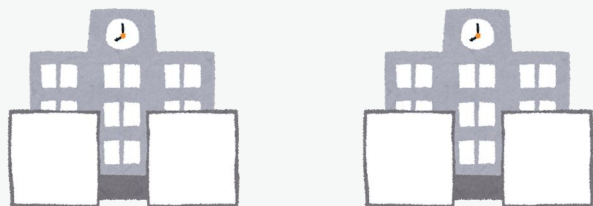
児童約5,000名 のデータ（野田ら, 2013）に基づく基準値に基づいて分析をしました。

- 支援の検討が必要となる可能性・・・赤
- 追加の見取りが必要な状況・・・黄
- 特に懸念なし・・・緑

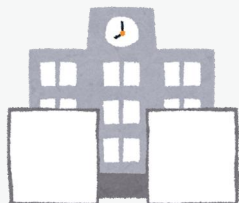
棒グラフの横軸の項目は以下の通りです。

- 小学校・・・調査対象となった全ての小学校
- 中学校・・・調査対象となった全ての中学校
- 検証加配校（小）および（中）・・・小学校あるいは中学校における検証加配校
- 非実践校（小）および（中）・・・検証加配校以外の小学校あるいは中学校
- 基準値・・・野田ら（2013）に基づく標準的な割合

- SDQについては、経年変化を追っていくことでより現在おこなっている施策の効果や不足している課題が明確になるため、来年度も実施できると良いと思います。
- 追加して、各学校においてインクルーシブ教育に関わる独自の施策を実践されているかと思いますが、今回はそこを十分に考慮できなかったため、来年度は、取り組み内容について尋ねるインクルーシブ指標も合わせて実施し、分析することを提案します。



この取り組みが  
子どもの困難さを軽減  
することに有効だった  
かもしれない！



学校ごとの  
インクルーシブ教育に  
関わる取り組み内容  
(インクルーシブ教育指標)



子どもの強さや困難さ  
の状況  
(SDQ)

